

東広島市立東西条小学校

令和7年度

第13回読書紹介文コンクール

入選作品集



「読書紹介文コンクール」入賞作品の紹介にあたって

校長 下田健一郎

平成二十五年度に始まった「読書紹介文コンクール」も、今年度で十三回目の開催となりました。

一人一人が自分の読書を振り返り、感動した本を一冊選び、その感動を「こんな人に伝えたい」という思いをもって紹介文を書きました。自分の感動や思いを「どう表現すれば相手に伝わるか」国語科等で学んだことを生かしながら一生懸命文章に表しました。

今年度も東広島市教育委員会、(株)プレスネット様アスクラibliography様のご協力を得て、最終審査を行いました。

どの紹介文も、本を読んで感動したことをもとに、自己を振り返ったり、未来の自分や社会を思い描いたりした作品で、考えたことがしっかり伝わってくるものでした。厳正なる審査の結果、各学年から特選作品、準特選二作品、計三作品が選ばれました。

選ばれた作品は、これまで、「リーフレット」として作成・配付をしてきましたが、今回から、「デジタル版」として、そのリンク先を本校ホームページに掲載し、広く作品を紹介していくこととしました。これまで行ってきた、(株)プレスネット様発行の新聞や、FM東広島様や、校内での放送による紹介も、継続して行われます。

本校の「読書紹介文コンクール」の取組を、より多くの方に知っていただくとともに、子どもたちの読書の輪が、益々広がっていくことを期待しています。

第13回東西条小学校読書紹介文コンクール 3賞入賞作品

【第2学年の部】

賞

特選 教育長賞

準特選 プレスネット賞

準特選 アスクライブラリー賞

児童名

小出 花穂

河野 結月

折手 勇仁

紹介図書名

ゆうびんやさんおねがいね

赤い本

虫はごちそう

【第3学年の部】

特選 教育長賞

準特選 プレスネット賞

準特選 アスクライブラリー賞

道中 ひまり

大江 晴香

藤岡 未南

はだしのゲン

オペラ座の怪人

ヘンゼルとグレーテル

【第4学年の部】

特選 教育長賞

準特選 プレスネット賞

準特選 アスクライブラリー賞

金子 杏菜

林 咲子

森田 悠心

若草物語

カメちゃんおいで、手の鳴るほうへ

波乱に満ちておもしろい北里柴三郎

【第5学年の部】

特選 教育長賞

準特選 プレスネット賞

準特選 アスクライブラリー賞

西本 麻央

吉盛 晴

宇佐 海結

津田梅子

成瀬は天下を取りにいく

ええところ

【第6学年の部】

特選 教育長賞

準特選 プレスネット賞

準特選 アスクライブラリー賞

藪木 翔大

木之下 咲優

山田 悠生

約束「無言館」への坂をのぼって

昔話法廷

ピアノ調律師

【第二学年】

特選 市教育委員会教育長賞

今、かなしい気持ちの人におすすめします

「ゆうびんやさんおねがいね」

作／サンドラ・ホーニング

絵／バレリー・ゴルバチヨフ

出版社／徳間書店



二年 小出花穂

わたしがしようかいする本は、「ゆうびんやさんおねがいね」という本です。

この本は、こぶたくんがおい町にすんでいるおばあちゃんのたんじょう日に、お手紙とすてきなプレゼントをとどけるお話です。

すてきなプレゼントとは、こぶたくんが大きく手を広げて、ぎゅつとすることです。こぶたくんは、まず、ゆうびんきよくの犬さんをぎゅつとします。すてきなプレゼントは、ゆうびんきよくの犬さんから、手紙をしいれるやぎさん、ゆうびんトラックをうんでんするうさぎくん・・・つぎつぎに、すてきなプレゼントがはこばれて、さいごは、おい町のおばあちゃんにとどきます。

わたしは、こぶたくんが大きく手を広げてぎゅつとするプレゼントがおい町のおばあちゃんにとどいて、心があたたかくなりました。

今、心がかなしいきもちの人は、この本をよんでみてください。きっと、心がポカポカあたたかくなりますよ。

【第二学年】

準特選プレスネット賞

終わらない怪談を聞きたい人におすすめします

「赤い本」

作／緑川聖司

絵／竹岡美穂

出版社／ポプラ社



二年 河野結月

みなさんは終わらない怪談を聞きたい時はありませんか。わたしがしようかいする本は「赤い本」という本です。この本はいろいろな話があります。がその中の一つのお話をしようかします。みなさんは「むらさきかがみ」という言ばを知っていますか。

これはゆう名な言ばで二十さいになるまでにこの言ばをわすれなければ死んでしまったり、ふこうになったりすると言われているのです。

「むらさき」も「かがみ」もごくふつうの言ばなのに、この二つがくつくと、どうしてのろいの言ばになってしまうのか。

ぜひ、ふこうになってしまいう理ゆうを知りたい人は「赤い本」を読んでみてください。

わたしはこのお話を読んでみて、せかいにはいろいろな「のろいの言ば」があることが分かりました。

このほかにもたくさんこわい話があるので、気になる方はぜひかりてみてください。

【第二学年】

準特選 アスクライブラリー賞

虫が好きな人におすすめします

「虫はごちそう」

作／野中健一

出版社／小峰書店



二年 折手勇仁

ぼくは「虫はごちそう」という本をしよう
かいます。

みなさんは虫を食べたことがありますか。こ
の本はいろいろな国の人が虫をつかまえて食べ
る話です。主人公が日本でこん虫食をしらべて
いるときに、大ぜいの人に聞いて回っていると
ころからはじまります。

「そんなの食べたことないよ」と言う人たちも
いたけれど、「たくさん食べたよ」という人も
多くいました。

この本を読んで、ぼくは「むかしは大ぜい
の人がイナゴを食べていたんだな」ととてもお
どろきました。おきなわでは、「イナゴは害虫
です」と言いながら、つかまえて食べていたそ
うです。みなさんはイナゴを食べてみたいです
か。ぼくもこの本を読んでイナゴを食べてみた
くなりました。

このほかに、たくさんの虫を食べる話
があるのでぜひ読んでみてください。

【第三学年】

特選市教育委員会教育長賞

なかなか悲しみをがまんできない人におすすめします

「はだしのゲン」

作／中沢啓治

出版社／汐文社



三年 道中ひまり

みなさんは、なかなか悲しみをがまんできない時はありますか？この本は、原ばくが落ちた時のことや、せんそうがつづいている時の日じょう生活を、絵や言葉で表しています。

広島でひばくしたこの本の主人公「元」は、原ばくが落ちた日に父、姉、弟をなくし、とても悲しみますが、お父さんが言ってくれた言葉「ふまれても強くまっすぐのびる麦になれ」という言葉を思い出しながら、いろんなことをのりこえていきます。

わたしがすごいなと思った所は、始めはあまえんぼうだった元が、悲しみをこらえてどんどんたくましくなっていくところです。わたしだったらすぐに泣いてしまうのに、がまんできてすごいなと思いました。そして、この本は、登場人物の気持ちになりやすい本でもあります。元が悲しんでいたらわたしもむねがはりさけそうになり、元がうれしそうなきは、おもわず鼻歌交じりになりました。

みなさん、今もまだせんそうはつづいていますね。

わたしは、せんそうの苦しみを地いきの人、日本のみなさん、世界みなさんに知ってもらって、今生きているよろこびをかんじてほしいと思い、この本をしようかと思いました。世界じゅうの一人、一人が気をつければ、せんそうはきつとなくなるはです。

【第三学年】

準特選プレスネット賞

自分のかんじようだけできめつけてしまう人におすすめします

「オペラ座の怪人」作／ガストン・ルルー

出版社／KADOKAWA



三年 大江晴香

わたしは、「オペラ座の怪人」という本をしようかします。

みなさんは、恋をしたことがありますか？この本では、見習い歌手のクリスティーナという女の子が、オペラ座にいる怪人にうつくしく歌を歌うための、アドバイスをされます。その怪人は、自分のことをゆうれいだといい、きみのような事けんをおこします。やがてクリスティーナが人気歌手へのぼりつめたとき怪人との間にふしぎなきずながうまれます。そして・・・せつない恋の物語！

わたしが感動したところは、クリスティーナが、みんなに人気のイケメンをえらばず、みんなにきらわれているゆうれいと恋におちたことです。それにクリスティーナの目の前で事けんをおこしたゆうれいですが、クリスティーナが理由を知ると、恋におちるということです。

わたしは、この本を読んでから、理由をまず先に聞こうと思うようになりました。もんくを言うのは、理由を聞いてからおそくないからです。

【第三学年】

準特選アスクライブラリー賞

ゆうきが出ない人におすすめします

「ヘンゼルとグレーテル」

作／いもとようこ

出版社／金の星社



三年 藤岡未南

みなさんは、ゆうきが出ないときはありますか。

わたしは、「ヘンゼルとグレーテル」という本をしようか
いします。

この本は、ヘンゼルというお兄ちゃんとグレーテルという
妹が森をさまよったり、とつぜん森にあらわれたおかしの家
にすんでいるやさしいおばあさんが、本当はこわい美女でヘ
ンゼルとグレーテルを食べようとしていたりドキドキする
お話です。

わたしがこの本を読んだきっかけは、ならいごとのがっし
ようだんでそのげきをやって、とても気に入ったからです。
きつとこの本を読めば、「ゆうきが出ない」「がんばれない」
というときに元気が出ると思いました。

じっさいにわたしも、読み始めたらずんだようなこ
とがあっても、ゆうきが出せるようになりました。とくに気
に入っしたのは、本当のお母さんではない人に森のおくにつれ
ていかれ、とつぜんあらわれたおかしの家に気をとられその
家の中でまじよに食べられそうになったのに、あきらめずに
また、自分の家に帰ることができたところでした。そこばかり
あとから何度もくり返して読んだほどです。この本を読んだ
後は、自分にゆうきをもってあしたがんばろうと思えるよう
になりました。そして、前よりももっとヘンゼルとグレーテ
ルがすきになっていました。

これから自分がふ安になったとき、この本を読んで、ゆ
うきを出したいです。また、わたしみたいにゆうきが出な
い、ふ安になるということがあれば、ヘンゼルとグレーテル
を読んでみてください。すると・・・ヘンゼルとグレーテル
みたいにくうきをもった心の強い人になれるかもしれませ
んね。

【第四学年】

特選市教育委員会教育長賞

兄弟のいる人におすすめします。

「若草物語」

作／L・Mオルコット

絵／NARDACK

出版社／KADOKAWA



四年 金子杏菜

私には、よくけんかをする妹がいます。お母さんは、「仲良くしなさい。」というけれど上手くいきません。そんなときに出会った本が「若草物語」です。

四姉妹は、お父さんがいなくて助け合ってくらしさみしいクリスマスをむかえることになりました。しかし、もっとお金のない家族に自分たちの朝ご飯を分けたことで、すてきな少年に出会います。父のいない一年をえがいた、愛と成長の物語です。

私が一番心に残ったところは、お父さんが行っている戦地の病院から「お父さんが危とく」ということを知り、お母さんが戦地にいくことになることです。戦地に行くお金がたりないときに、次女のジヨーが、自分の大切にしてきたきれいなかみの毛を売って、お金にしてお母さんにわたした場面です。大切な家族のために自分の大切な物を売る行動に、とっても感動しました。「ジヨーはとってもやさしくて家族思いだな」と思いました。

私はこの本を読んで家族の大切さや人の大切さをあらためてよく知ることができました。私は、この本をきっかけに妹と仲良くしようと思いました。

【第四学年】

準特選プレスネット賞

カメをかつている人におすすめします。

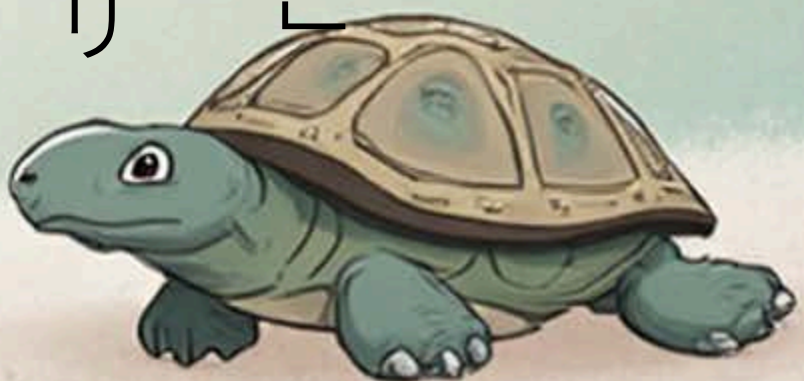
「カメちゃんおいで、手の鳴るほうへ」



作／中村陽吉

絵／アトリエ・モレリ

出版社／講談社



四年 林咲子

私は「カメちゃんおいで、手の鳴るほうへ」という本をしようかいたします。

この本は、筆者が人にもらったり、買ったりしたカメに、なついてもらおうと努力する話です。私はこの本を、カメをかつている人にしようかいたします。

私がこの本を手にとったきっかけは、去年の六月にカメをかいはじめたからです。カメについて知りたいと思って図書館に行ったとき、この本を見つけました。この本にはカメになついてもらうまでに筆者がしたことや、それにたいしてカメが取った行動が書かれています。私はカメが筆者になつている場面を読んで、「私のかつているカメもこんなふうになつてくれるかな」とわくわくしました。そして、カメになつてもらえた筆者をとてもうらやましく思いました。

この本を読んで私は、カメになつてもらうために「カメの気持ちを考えることから始めよう」と思いました。そしてカメがなにを求めているのかを考えるように心がけています。

カメをかつている人は、この本を読んでカメになつてもらえるようにがんばってください。

【第四学年】

準特選 アスクライブラリー賞

あまり自分で調べようとしないう人におすすめします

「波乱に満ちておもしろい北里柴三郎」



作／石崎洋司

絵／小坂伊吹

出版社／岩崎書店



四年 森田悠心

ぼくは「波乱に満ちておもしろい北里柴三郎」という本をしようかいたします。みなさんは、「有名な人が言っているから必ずそうだ」「調べなくても答えは出ている」など、すべてきめつけてはいませんか？この本は、そんな気持ちがある人におすすめします。

ぼくが、この本を手にとったきっかけは、新千円札にのっていた人だったからです。ぼくはこの人がなぜ千円札にのったのが気になり、本を読んでみました。そこには、北里柴三郎が失敗やトラブルがある中でも、自分の選んだ医学の道を極めていくことが書かれています。読んでみると、「どうなるのかな？」と、次のページに進むのが楽しみになってきました。中でも、北里柴三郎が有名な学者ができないと言った、破傷風菌という菌のじゅんすい培養をする場面が心に残りました。この場面は、あぶない実験をしても、じゅんすい培養を成功させようとする北里柴三郎を思いうかべると、「ぎもんに思うことは大切だな」と感じることができました。この場面を読んで、ぼくもぎもんに思ったことを、たくさん調べてみようと思いました。

北里柴三郎の医学を極める道はまだまだあります。気になる人はぜひ、この本を読んでみて下さい。

【第五学年】

特選市教育委員会教育長賞

勉強できる環境が当たり前だと思っっている人におすすめします

「津田梅子」

作／中川千英子

絵／杉山エコ

出版社／GAKKEN



五年 西本麻央

みなさんは、「津田梅子」という人を知っていますか。新しい五千円札の表面に描かれた人物です。この本は、梅子の生き方を知り、今の環境を当たり前と思っている人にぜひ読んでもらいたいです。梅子の考え方を知ることできると考えに変化があると思います。

約百五十年前、お父さんにアメリカへ行くことをすすめられた梅子は、日本人初の女子留学生としてアメリカにわたり、生がいで四回もアメリカへ行きました。その経験の中で、日本の女子教育はアメリカで見たものとはあまりにもちがうことに気付いたことから、梅子は日本の女子教育や女性の地位向上のために力を尽くす、というお話です。

私はこの本を読んで、女性がまだ、自立して働くことや、学校に行ったり習い事をしたたりすることも難しかった時代に、女性のために学校を造ろうと立ち上がった梅子はすごいと思いました。何度体調をくずしても生徒のためにあきらめずに努力したことが、自分の目標を実現することにつながっていて、とても感動しました。どれだけ梅子が生徒のことを思って頑張っていたのかを感じます。私は周りのことまで考えて行動を起こすことが難しいので、梅子のように人のために行動できるようになりたいと思いました。

現在では、男女が平等に勉強したり、自立したりすることができます。これは当たり前ではなく、梅子のような昔の人の努力によるものです。どんな場所であっても教育は出来るという強い気持ちで行動した梅子のように、この本を読んで勇気をもらい、自分の出来ることを見つけ、行動してみましよう。

【第五学年】

準特選 プレスネット賞

自分に自信がない人におすすめします

「成瀬は天下を取りに行く」

作／宮島未奈

出版社／新潮社



五年 吉盛晴

みなさんは、自分のことが好きですか。私は自分のことがあまり好きではないな」思ったことがあります。なぜなら、できないことがたくさんあるからです。私は、この本を、自分に自信がない人におすすめします。

この本の主人公である成瀬は、歌を歌うのも、走るのもだれよりも上手にできるけど、みんなが考えないようなことを考える不思議な人です。そんな性格だから、他人を引き寄せず、小学五年生になると、女子から無視されるようになっていきます。この本は、そんな成瀬が友達の島崎みゆきと一緒にまん才や色々なことにちよう戦していく物語です。

この本を読んで、印象に残ったところが二つあります。一つ目は「二百歳まで生きる。」などの成瀬の言葉です。このような成瀬の人とは変わった言葉を聞いて、「人と違っていてもいいんだな」と感じました。自分に自信をもって、前向きに生きていきたいなと思いました。二つ目は、友達の島崎が成瀬のことを大切に行っている姿です。島崎の優しさがすてきだなと思いました。「私もいつかそんな友達をつくりたいな」と思いました。そして、友達という宝物を大事にしていこうと思いました。

みなさんも一人一人が大切な人です。人と自分を比べていやになる時があっても、成瀬のように前向きに生きてほしいです。私のように自分のことがあまり好きではない人もいると思います。しかし、そんなあなたにも必ず良いところがあります。そんな良いところを見つけてほしいです。もし、自分の良いところに自分で気付くことができれば、自分のことが少し好きになれると思います。そして自分のことを大切にできたなら、友達も大切にしてあげてください。私は、みんながこの本を読んで、自信をもって生きていけるといいなと思っています。

【第5学年】

準特選 アスクライブラリー賞

不安や緊張を感じやすい人におすすめします

「ええところ」

作／くすのきしげのり

絵／ふるしょうようこ

出版社／GAKKEN



五年 宇佐海結

みなさんは何かにつまずいたり、自分に自信がない時があったりしますか。私はこの本を、不安や緊張を感じやすい人におすすめします。

この本は、登場人物のあいちゃんが小学生の時、自分の良いところを探すお話です。あいちゃんの友達のもちちゃんが、「あいちゃんは、ええところあるよ。」と言います。あいちゃんが、良いところはどこか聞くと、ともちゃんは長いこと考えて、次の日に良いところを教えてくださいます。そして、あいちゃんは自分の良いところは「思いやりがあること」だと気付くことができるのです。

私はこの本を読んで、心が元気になりました。理由は、私の周りにもすてきな友達がいることに気付かせてもらったからです。私は四年生の時に転校してきました。とてもドキドキしていたら、二人の友達が優しく声をかけてくれて、私の良いところを見つけ教えてくださいました。私はその時、今まで気付かなかった自分の良いところを初めて見つけることができました。そして私もその友達のように、人の良いところをもっと見つけていきたいと思いました。けれど、人の良いところは簡単には見つけられないものだと思います。この本は、人には色々な個性があり、一人一人違う良さがあることを教えてくださいます。だから私は、人のそのままの姿から良いところを見つけるようにしています。

みなさんの良いところはどこですか。周りに自分の良いところを見つけてくれる人はいますか。みなさんもぜひ、友達や自分の良いところを見つけて、それを教え合って、自信を持って何事にも取り組んでいってほしいです。

【第六学年】

特選市教育委員会教育長賞

約束の大切さについて考えたい人におすすめします

「約束『無言館』への坂をのぼって」 作／窪島誠一郎

絵／かせりょう

出版社／アリス館



六年 藪木翔大

皆さんは、「約束」と聞いて、どのようなことが思い浮かびますか？

この本は、主人公の窪島誠一郎さんが左手のない老画家と出会ったことから、戦争で命を落とした画学生たちの存在を知り、その遺族を訪ねる旅を経て、戦争がもたらした悲しい現実と画学生たちが確かに生きていた「証」に出会い、戦没画学生の慰霊美術館「無言館」を建てるまでを描いた本です。

僕がこの本で一番感動した場面は、主人公の窪島さんの両親や出会った老画家、画学生やその遺族との【約束】を果たすところです。窪島さんは勉強やスポーツが苦手でしたが、絵を描くことが大好きでした。しかし、画家としてうまくいかず、夢をあきらめます。その後、窪島さんは店を開業し、成功します。そこで、貯めたお金を使って戦死した画学生さんたちの絵を集め始めました。そして、長野県上田市に「無言館」を建てます。その後、窪島さんは夢を見ました。亡くなった両親がたくさんの人の思いや願いを形にした美術館を建てた窪島さんのことをたくさんほめ、心から喜んでくれた夢でした。この夢を見たのは、窪島さんが人と人との間で言われて行動に移す約束とは違った形の「約束」を守ったからだと僕は考えました。なぜ、窪島さんは美術館を建てたのでしょうか。窪島さんが果たした「約束」とはどこから生まれたのでしょうか。

それは、左手のない老画家と戦時中の画学生の作品との出会いから、戦争の残酷さとたくさんの人が亡くなった現実と向き合い、その中で自分に行うことができるのではないかと考えた時に、美術館を建てるということが自分の使命だと思いついたからだと思いました。戦争のせいで夢と命を奪われた戦没画学生の生きた証を美術館という形で残していくことが、戦争で亡くなった人々のために自分が果たせる「約束」だと窪島さんは考えたのです。また、このような戦争を二度と起こしてはならないという決意を未来に伝えていくことも、亡くなった人々に「約束」することにつながると考えて建てたと思います。

僕は、約束には二種類あると考えました。言われて行動に移す、相手から言われて守る「約束」、自分から相手のことを思い、考え、行動する「約束」があるのだと思いました。この物語で窪島さんが果たした「約束」には、たくさんの戦争に対する思いがあふれているなと心が震えました。

この本を読んで、自分の内側から生まれる「約束」について深く考えることができました。僕たちが「人との約束」「自分の内側から生まれる約束」どちらの約束も大切にしながら生きていくことが、人と人をつなぎ、平和な世界を創り上げることにつながると思います。「約束」の意味について考えが深まる本なので、ぜひ読んでみてください。

【第六学年】

準特選プレスネット賞

昔話が好きな人におすすめします

「昔話法廷」

作／才力モト 國ヒコ

絵／伊野孝行

出版社／株式会社金の星社



六年 木之下 咲優

これからフシギな裁判が始まります。昔話の登場人物たちを現代の法律で裁く「昔話法廷」開廷！

皆さんは、タイトルの「昔話法廷」を読んでどんな話だと思いますか？みんなが知っている昔話をどう裁判するのでしょうか。

私が一番面白いと思った、「ヘンゼルとグレーテル」裁判を紹介します。グリム童話の物語をもとに裁判は開かれます。裁かれる被告人は、魔女を殺して金貨を奪った罪に問われている兄妹のヘンゼルとグレーテルです。しかし、ヘンゼルとグレーテルは生活が貧しくなった両親から口減らしのために森に捨てられていたのでした。お腹を空かせた二人がしたことやその理由などいろいろな視点から裁判は進んでいきます。男女六人の裁判員が証人尋問と被告人尋問を聞いて、評議して判決を出していくのですが……一つの事柄でも、それに対して裁判員それぞれの考え方が違います。どの考え方にも共感することができ、判断がとても難しいと思いました。善悪を決められない現実世界の司法の難しさやいろいろな視点からの複雑さに、深く考えさせられました。

さて、どのような判決が出たのでしょうか？あなたなら、ヘンゼルとグレーテルが犯した罪をどのように考えますか？

ぜひ、この本を読んで考えてみてください

【第六学年】

準特選アスクライブラリー賞

人生にとっての幸せを見つけた人におすすめします

「ピアノ調律師」

作／M・B・「フスタイン

出版社／現代企画室



六年 山田悠生

皆さんに質問です。人生にとっての幸せって何だと思えますか？自分もこの「幸せ」にはとても頭を悩ませました。お金持ちになること？いい仕事に就くこと？賢い大学に行くこと？人生にはたくさんの方がいると思いますが、「自分の人生にとっての幸せ」を見つけない人に「ピアノ調律師」を紹介します。

この本は、ピアノ調律師の仕事に情熱を傾ける少女が祖父の後継者として一人前に成長していく過程を描いた物語です。

この本の中で一番心に刺さった部分は、主人公の祖父のルーベンの「あの子にはこれより、もう少し良い仕事に就いてほしかったものです」という発言に対して、リップマンが、「ルーベン、人生で自分の好きなことを仕事にできる以上に幸せなことはあるかい？」と返したところです。この発言では、自分の就く仕事が良いか悪いかなどは関係なく、自分の好きなこと、自分のなりたいものになる、それ以上の幸せがあるのかと考えさせられる部分です。確かにいい仕事に就くことはいいことではありますが、それが「自分の人生にとっての幸せ」になるかということです。

そこで自分は自分のやりたいこと、なりたいもの、挑戦したいものに、何にも惑わされずに自分の人生を好きなように生きていく。それが「自分の人生にとっての幸せ」だと思います。きつとこの本はあなたが自分の「幸せ」を見つける道しるべとなることでしょう。そしてぜひ、この本を読む機会があったら、この本を読む前に考えた「自分の人生にとっての幸せ」と、この本を読んだ後に考えた「自分の人生にとっての幸せ」を比べてみてください。